



松尾 義幸

運転免許証返納の 対策強化を急げ

市長

タクシー券・巡回バス
など検討する

松尾 ①高齢者の運転免許返納に伴う運転経歴証明書^①の発行状況は。②タクシー券の交付や巡回バス、循環バスなどの割引や無料化の検討は。③県内の免許証返納に対する後押し^③の施策は。

市長 ①昨年1年間で、小城市内で免許証の自主返納者は、64名。今年1月から4月まで4ヵ月間で、63名と大幅に増加。②更なる自主返納を促すため、高齢者の移動の負担を減らす必要があり、タクシー券の交付、巡回バス等の割引や無料化など検討する段階にある。③県内6市で自主返納者に対して支援を行っている

る。佐賀市

は、市営バス

運賃を半額助

成。鳥栖市

は、路線バス

の運賃を補

助。伊万里

市は、市のコ

ミュニティバ

スを1年間無

料。タクシー

券の交付を嬉

野市や武雄市

で行っている。



▲高齢者の免許証返納が急増

松尾 高齢者の自主返納

者が確実に増えており、

小城市でも早く対策を立

てる時期にきている。

立で考える。

その他の質問

○小・中学校普通教室へ

のクーラー設置

○アイル資源磨き



永瀨 和正

砥川小学校附近の 水害解消は

市長

国に問題提起をし、協議して
いく

永瀨 国道34号線砥川小

学校前の交差点附近は雨

で道路が冠水し、砥川地

区の発展を阻害している。

①近年の雨による交通規

制の実態とその時の降雨

量は。②近くには保育園、

小学校、工場団地があり、

水害対策は喫緊の課題。

国道の冠水対策を柳鶴の

満^{まん}神^{じん}排水ポンプの能力が

適正かを含め、市民の安

全を守るため水害の原因

調査の考えは。

建設課長 ①交通規制は

10年間で4回、最長27時

間。1日200mm以上の

雨が降ると交通規制が生

じている。

市長 ②内水解析を含め

て国と協議する。

砥川大橋の橋桁は堤防よ
り低いため流水を遮る

永瀨 牛津川に架かる砥川大橋の橋桁は、牛津大橋と砥川大橋との中間点附近では、左岸(新町側)で73cm、右岸(砥川町側)で78cm堤防より低い。大雨で増水した時は橋桁が流水を遮り堤防が切れる可能性がある。市の防災対策は。

市長 橋桁が堤防より低いことは知っている。破壊するおそれがある



▲橋桁が堤防より低いため流水を遮るおそれがある砥川大橋

る。監視カメラを常設するなど注視していく。

その他の質問

○農業用水の安定供給と排水機能の確保について



香月チエミ

学校給食の食物アレルギー対応は

教育長

安全かつ楽しい給食となるよう対応したい

香月 ①市内の児童・生徒の食物アレルギーの現状は。②対応者の判断は。

③小城給食センターでは除去食対応ができず、個人で弁当持参等が必要。

できる範囲でアレルギー食材を使わない献立の試

みをしてはどうか。

教育長

①食物アレルギーを持つ児童・生徒の割合は、平成28年度調査で3・5%。全国平均2・7%。三日月中6・3%、岩松小4・8%、三日月小4・7%。近年は横ばいで推移している。*エビペン保有者は6名。(4022名中、139名) ②原因食材の上位は卵、牛乳、甲殻類。必ず医師による「生活管理指導表」を提出してもらい対応している。③栄養

▲食物アレルギー対応は安全・確実に



小城市公共施設等総合管理計画について

香月

25年間で延べ床面積を5%、更新費用を25億円縮減の指標設定だが進捗管理の手法は。新規事業をどう落とし込むか。

総務部長

毎年施設ごとに増減量を把握し、施設の個別計画書の中で、財政計画とも連動する仕組みを考えたい。



中島 正樹

4期目の公約実現のための手法は

市長

財政も考慮し、事業の取捨選択も必要

中島 アイル資源磨きについては、4年前の3期目当選時にも公約にされているが。

市長 これまでに基本構想を作ったが、財政的に市単独でこの事業はできない。そのため先導的官民連携支援事業調査を行い、時間を要した。

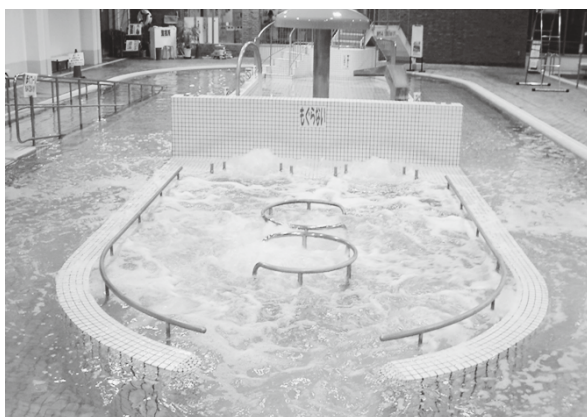
中島 この事業の年次計画や財源内訳について、いつ議会や市民に示されるのか。

市長 庁内で十分な議論をしていないため、もう少し待っていただきたい。

中島 現在は福祉部所管

の保健福祉センターだが、資源磨きによってどうなるのか。

市長 市内に保健福祉センターが4か所必要なのも議論する必要があるが、市民の健康のための拠点にする必要もある。



▲保健福祉センターとしての役割を果たすアイルの館内

教室への冷房設備の設置

中島 設置した場合の年間コストは。

その他の質問

教育部長 電気代で約1,700万円増加する。

- 西九州大学への支援
- 運動公園跡地の活用
- 佐賀唐津道路など



松並 陽一

小城市中心市街地活性化の 成果は

市長
通行者数目標は達成し、小売
販売額も増加

松並 ゆめぶらっと小
の利用者数は。

用途は。

建設部長 上り線は平成
29年度中、下り線は30年
度夏までの供用を目標と
されている。

建設部長 順調に工事が
進めば、平成30年秋頃の
供用開始の見込み。

まちづくり推進課長 年
間7万7千人の想定に対
し、28年度実績は17万7
千人となっている。

その他の質問

松並 有明海沿岸道路を
企業誘致に活用
できないか。

松並 市南部地域の市民
の利用状況は。

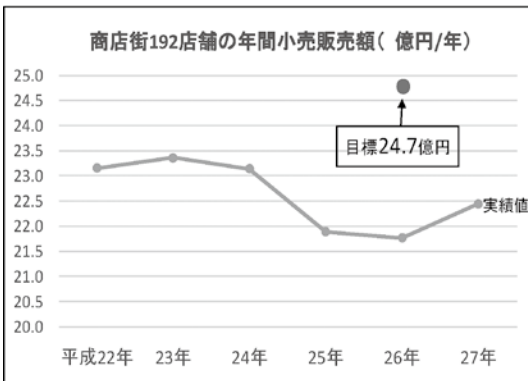
まちづくり推進課長 小
城町の方の利用が多いと
想定されるが、市全域の
多くの方々に利用しても
らいたい。

副市長 道路周
辺にまとまった
土地がないた
め、まずはイン
フラ整備が必要
である。

道路行政について

松並 有明海沿岸道路・
芦刈南インターの復旧の
状況は。

松並 江津交差
点改良の進捗状
況は。



▲小城市中心市街地活性化事業の目標と実績



西 正博

休館日の工夫で図書館の 利便性向上は

教育長
月曜休館は市民に定着して
り変更は難しい

西 一般的に図書館は
市町村に1館が多いが、
小城市は、三日月館、小
城館と大きな図書館が2
つあり幸いなことだと思
う。しかし、休館日が同
じになっており、変える
ことで、相互に効果が出
るのではと考えるが。

それと、視覚に障害の
ある方が利用し
やすい図書館と
して「サピエ」
に加入すること
も検討しても良
いのではと考
えるが。

上がったことはあるが、
月曜休館は、利用者にと
着している。休館日の
変更によりシステムメン
テナンスや、図書館の相
互貸借や職員連絡調整に
不便があり、当面は現状
の月曜休館でいきたい。

交通安全へ更なる 対策を

西 34号線三日月町久
本交差点は、南北の市道
からの信号機の改
良で、よりスムー
ズな通行が確保で
きると思われるが。

教育長 市民図
書館の利用者の
増加のため休館
日をずらす話も



▲三日月町久本 34号線と市道との交差点、
改善が急がれる市道側の信号機

総務部長 近年の
人身事故の発生は
無いが、背面信号
機などの対策は、
県警と関係機関に
検討をお願いした
いと考える。



光岡 実

4期目の決意と抱負は

市長 安心して暮らせるまちづくりをさらに進める

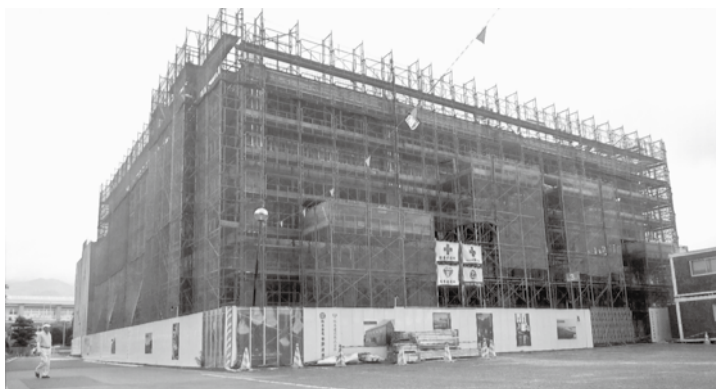
光岡 4期目のスタートに当たり、市長の決意と抱負は。

市長 公約として、まちづくり、人づくり、未来づくりを掲げ、まちづくりとして①駅を中心とした牛津拠点地区を活性化する計画を推進していく。②アイルの温泉等を資源として磨き、健康を一つの大きなテーマとし、このアイル資源磨きに邁進していきたい。③小城町の運動公園予定跡地をどのように利活用できるのか、そのためのプロジェクトチームを立ち上げて検討したい。人づくりの分野においては、西九州大学の地域

看護学部が来年4月の開校予定であり、学生やそこに勤める

方々の定住・移住対策の支援をしつかりやっていきたい。また市内の子どもたちが勉強しやすい環境づくりと、いうことで小・中学校の教室に冷暖房設備の導入も公約している。

未来づくりのインフラ整備では、小城スマートインターチェンジの設置、佐賀唐津道路の整備、農業の基盤整備の促進を掲げている。



▲工事が進む西九州大学

その他の質問

○イノシシの捕獲と処分場所について



江島佐知子

産業振興策は攻めの姿勢で

市長 国、県と連携して様々な取り組みをしていく

江島 産業振興策について

①企業誘致について、工場団地は完売し今後は空き物件を活用するということだが、情報収集、発信は十分にできているか。②国の制度活用で企業への支援を充実すべき。③6次産業への支援は農業者の視点だけでなく、市場調査、ニーズ調査等も重要。

市長 ①県と連携して情報の発信、収集をしている。今後は市独自の情報発信もしていく。②空き店舗対策や小口資金融資等行っているが、今後関係機関と連携し国の「創業支援事業計画」の認定を受けて起業支援

に取り組むようにする。

③平成24年度から準備してきたが、27年度から「農商工連携・6次産業化補助」を創設して支援している。農業者だけでなく、地元企業や大学と連携して消費者サイドからのアプローチも必要と考える。

生活困窮者の自立に向けて

江島 生活困窮者自立支援事業を社会福祉協議会に委託したメリツトは。

福祉部長 生活資金貸付相談が多く、専門の職員を充実させること



▲建設中の(株)鶴沢鉄工所で完売した工場団地



下村 仁司

29年度

自主財源の増加になる施策は

市長

ふるさと納税で自主財源を確保したい



諸泉 定次

教育勅語への対応は

教育長

教育委員会としては取り扱わない

下村 国策では、農林漁業競争力強化のために多くの新規補助金があるが市の取り組みは。

産業部長 農林漁業関連では継続事業だけで、新規事業はない。

下村 他漁港の状況を見て、補助金など使って漁港整備すべきでは。

市長 漁港整備はすべきだが他漁港も見たい。

下村 水路整備の個人負担金は不公平ではないか。

産業部長 県営事業は5%個人負担がある。

下村 福所江流域の水害対策やフラップゲートは。建設部長 佐賀土木事務所にお願いしている。

下村 桜岡小学校前の松屋の堀の取水口が汚い。どこかの管理か。市長 環境課の管理。



▶整備が望まれる住ノ江港

諸泉 来年度の学習指導要領の改訂で、道徳と小学校での英語が教科化となる。教科化となれば内心を評価し通信簿にも記載される。

道徳での心の内をどのように評価するのか。

また、衆・参両院で廃止された教育勅語を、安倍内閣は活用できるとして都道府県や市町村教育委員会の判断としている。教育委員会の見解は。

発達障がい児対応の子どもサポーターの増員を望む声は学校現場で根強い。増員の考えはないのか。

教育長 文科省が平成28年7月に道徳教育に係る

評価の基本的考え方を示した。数値による評価ではなく、記述式で他の児童・生徒との比較でなく、いかに成長したかを励ます個人内評価。

通信簿の5段階評価ではなく、言葉で成長面を評価する。

また、教育勅語は現在のところ取り扱わない。

子どもサポーターは、平成17年に15名。平成22年度から22名の体制。子どもは減少している



▲増員が望まれる子どもサポーター

が、特別支援を要する児童・生徒の割合は増えており、増加を課題に入れて対応を進めたい。



合瀬 健一

観光拠点の整備を考えては

市長

慎重にしていかななくてはならない

合瀬 観光の拠点の整備をどう考えているのか。

市長 観光の資源はたくさんあるが、拠点として整備していくには、相当の計画と事業費がかかる。慎重にしていかななくてはならない。

合瀬 観光の拠点は必要だと考える。来年、スマーティンターも開通し、拠点としては、須賀神社あたりがいいと考える。千葉城を復元したら相当な観光資源になると思うが、それは可能か。

文化課長 課題が多く、十分な検討が必要である。

合瀬 昨年、千葉氏サミットが開かれ、共同宣言書の中に、千葉氏に関する歴史や文化について、日本遺産の認定を目指すところ。次回、千葉氏サミットの

中で、市長は千葉城の復元に手を挙げられたらどうか。財源はふるさと納税を利用し、全国の千葉氏に呼びかけたらどうか。

市長 復元ではなく、今の状態を残していく。しか

し、城跡までの道がないので、道が必要かどうかを考えていかなければならないと思う。



▶千葉城の復元は



富永 正樹

運動公園元計画地の活用は

市長

皆さんと共に活用策を考えていく

富永 4期目の市長の公約に運動公園元計画地の対策を掲げているが、どのようなものか。

市長 地域に住む人々が安心して生活できるように環境を整えた地区の創設を考えており、移住・定住、福祉、自然公園などのイメージを持って開発、活用ができればと考えている。庁内にプロジェクトチームをつくり、検討していく。

富永 小城鍋島家の菩提寺星巖寺周辺を含めた山辺の道の活かし方は。また星巖寺での羅漢づくりを活かした人づくりや観光振興は。

産業部長 ウォーキングイベントのコースや散歩道としての活用をしていく。

商工観光課長 市としては羅漢づくりについて現在再開の検討はしていない。まちづくり団体等で再度検討いただきたい。

富永 昨年12月議会で名誉市民認定に関する条例の制定について質問した折、検討、議論する必要があると答弁されたが、その後どうなったのか。

総務部長 県内の10市のうち8市が名誉市民条例



▲平成の羅漢さんが居並ぶ星巖寺境内

を制定している。市としても条例制定の必要性は十分感じて、その協議を進めていかねばという認識は持っているが、現在までに具体的に条例の制定作業は行っていない。



中島 正之

初の自己推薦枠採用の感想は

市長

非常に良かったと思うので今年も実施したい

中島 良かったと思われ
るなら今年も実施を。

市長 学生時代からスポーツや文化面で上位のレベルに達するには大変な苦労や努力をして成績を上げてきた経験を通じて精神的な強さとか明るさを感じ、今後も心身ともにそういった形で頑張ってくれることを期待している。

中島 公約の小城町運動公園跡地の利用は。

市長 せめて7月末までにはプロジェクトチームを結成し、方向性を含めた話し合いをスタートできればと考えている。

中島 3年後には小学校5・6年生は英語が教科

化、3、4年生に外国語活動が導入されるが、英語の堪能な方を支援員、協力員として市費で担任の先生と一緒にやってもらえる体制はできないか。

市長 教育委員会も含めて協議させていただきた

い。

中島 県道牛津芦刈線の小路地区の歩道がなく危ないので仮歩道を県に強く要請。

来年の芦刈幼稚園解体後は、学校横でインターに近く、定住促進のために住宅用地に活用を望む。



▲県道牛津芦刈線の歩道がない区間



深川 高志

牛津拠点地区活性化事業は

市長

駅周辺や駅南側の取り組みに課題

深川 市長の公約として掲げられている牛津拠点地区市街地活性化推進事業について、基本構想が議会に示された。今年度、牛津拠点地区市街地活性化構想が動き出そうとしているが、牛津拠点地区の現状をどのように見るのか、また、問題、課題は。

て課題を示されている。市営住宅を一元化して、駅南に建設したのも課題解決の一つだが、それだけで問題は解決しない。駅南から北へ渡れる連絡通路の問題、旧牛津庁舎前の市有地の活用問題、牛津会館を含む赤れんが館等の利用など総合的に出しながら、活性化事業に結びつきたい。

市長 牛津の商店街の状況は、ある程度、きれいな商店街である。どこでも課題である高齢化や後継者不足、また、空き店舗の問題が始めてきている。一番課題として挙げられるのは、駅周辺がありよう。市民の方々は、駅南側の取り組みにつ



▲牛津拠点地区活性化事業の核となる牛津駅

まちづくり推進課長 牛

津駅周辺の整備計画は、牛津駅南の広場整備、自由通路や跨線橋の整備に係るものなど。



上瀧 政登

牛津川の河川改修と満神排水機場

市長 整備計画は長期にわたるもので状況の変化に対応

上瀧 牛津川の河川改修の進捗状況は。

市長 長い期間の整備計画に沿って改修が行われ

ている。記録的な大雨により堤防決壊等の災害が発生した場合逃げ遅れる人をなくしたり、経済的被害を最小にするなど減災の取り組みを推進すること。堤防上部のアスファルト舗装やのり尻の補強としてブロックの設置を行うことなどで、引き続き要望活動を行う。

思うがなぜこうなっているのか。

市長 ポンプ場設置基準には具体的には遊水池の面積についての規定はないが、おおむね目的を達成しているのではないかと



▲稼働時間が最も長い満神排水機場

上瀧 砥川の満神排水機場は他と比べ圧倒的に稼働時間が長いのに、遊水池の面積が小さいと

教育長 今村前教育長の方針を受けつきながら、人づくり、命を大切にす

上瀧 大野新教育長にその所信を問う。

教育行政について

岸川 新規就業者に対する支援の考えは。

市長 農業ではワンストップで対応できる合同相談会や経営基盤の早期確立にサポートを行って



岸川 英樹

農林水産業の固定資産税への支援は

市長 市の基幹産業は農業であるという考えは変わらず

市長 非常にいい試みだと思います。担当も含め協議をできればと考える。

岸川 新規就業者に経営が安定するまで、免税・減税が考えられないか。

岸川 ふるさと納税の返礼品代3割以下で、総務省から通達の対応は。

ふるさと納税について

市長 農業関係は、国県市と補助が出ている。減免措置は慎重に協議するべきと思っている。

市長 平成29年度に向けては準備し販売戦略や政策も済んでいる。なかなか対応できない状況である。

岸川 農業トレーニングファームの考えはないのか。



▲県が発行している新規就農の手引



市丸 典夫

大野新教育長の方針を問う

教育長

小城市のために
 これまでの恩を返したい

市丸 新教育長の方針、
 基本的な考え方は。

教育長 私はこの美しい
 小城市に生まれ、それぞ
 れの自然の中で育つてき
 た。多くの出会いの中で

たくさんの方の事を学び、
 育ててもらった。この出
 会いに感謝している。

また誰にでもふるさと
 小城市を自慢できると思っ
 ている。今後は小城市の
 ためにこれまでの恩を返

市丸 今村前教育長は議
 会の質疑の場でいろんな
 答弁をされている。その
 答弁を受け継いでいかれ
 るのか。

教育長 今村前教育長の
 つくり上げられた小城市
 の教育をしっかりと受け継
 いでいく。

行政区について

市丸 開発に伴う住民の
 増加に対しての対応は。

市長 行政のほうから各
 自治会への積極的な関与
 は行っていかない。相談が
 あれば個別案件に応じて
 対応している。



▲小城市初の小中一貫を実施した芦刈観瀾校

すとともに、小城
 市に住んでいる人
 のために教育長と
 という職を全うした
 かと考えている。
 小城市の教育の基
 本目標である「城
 創伝心」という小
 城市の歴史、伝統
 を受け継ぎ、文化
 を創造する豊かな
 心を育み、後世に
 伝える人づくりを
 やっていく。

議会報告会

去る7月20～21日に市内4カ所で第5
 回議会報告会を開催。各会場では市政に
 対する様々な質問、意見が出されました。
 各会場には、小城市17名、三日月20名、牛
 津9名、芦刈8名の合計54名が来場され
 ました。報告会の内容等については次号
 でお知らせいたします。

報告会にご参加いただきました市民の
 みなさん、ありがとうございました。



▶三日月



▶牛津



▶芦刈



▶小城市